

そうじの力だより

VOL.239



支援レポート

最後の決め手は日々の継続
「そうじの力」に終わりをなし

兵庫県丹波市の株森田石材店。創業大正八年、現社長が三代目で、五つの事業所を持ち、社員数三千三名の会社です。

ここで、八年前から、弊社のお手伝いにより、「そうじの力」と銘打って、整理・整頓・清掃の活動が続けられています。

三年前には、約六〇名を集めて、「そうじの力 全国大会」をホスト企業として開催していただきました。

この八年間で、社内環境は劇的に変わりました。

当初、いたる所に大量に積んであった石材在庫は、厳選して整理した結果、必要最小限の量になり、広いスペースが生まれました。

工場内は、旧工場と新工場で、床面に段差があったのですが、自分たちで土間コンクリートを打ち直し、フラットな床面にして使い勝手を改善しました。

事務所も、整理整頓が進んだうえで、つい最近、総リフォームをかけて、無垢の板張りのモダン



板張りでスッキリと整った事務所

な雰囲気の仕事所に生まれ変わりました。

同社では現在、三ヶ月に一回、筆者が訪問し、勉強会を開催しています。

勉強会においては、各部署よりそれぞれの活動報告をしてもらった後、参加者全員で事務所や工場などの現場を見て回り、活動の成果と課題を確認しています。

筆者が訪問しない月でも、毎月、各部署のリーダーが本社に集まり、ミーティングを行って、成果と課題を共有しています。

同社において特筆すべきことは、大きな改善だけでなく、日常の中での片づけやそうじをコツコツと実践していることです。

たとえば、石材の字彫り用のサンドブラスト機。以前は床面に、舞い散った砂が積み重なっていました。



砂がなくキレイなショットブラスト機下の床面

字彫り機をしたその都度、きちんと掃きそうじをしているようすが伺えます。

また、工場で使う研磨用の機材も、定位置化されているのはもちろんですが、それらがいつ見ても、きちんと元に戻っているの

です。当たり前のことと思えるかもしれませんが、

そんなところが、この意気込みと、外と気を抜く



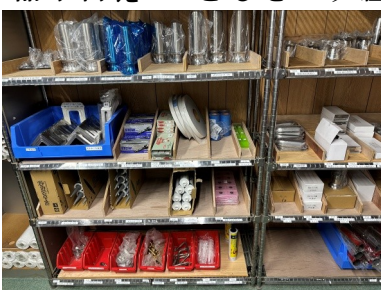
道具類がきちんと元に戻っている

と、すぐに乱れるもので、せっかく定位置化したのに、定位置にモノが戻っていない、ということも一般的には多いものです。

同社の社員さんたちの意識が高く、整えることが定着しているのです。

もうひとつの特筆すべきことは、一度改善したところでも、さらなる改善に取り組み、スクラップ&ビルドを繰り返していることです。

たとえば、花筒などの小物商品



在庫管理ができるよう改良が進む小物棚

や施工用の消耗品を納めている棚は、きちんと在庫管理ができるように改善していましたが、さらにわかりやすくするために、改良を加えています。

また、本社の道路を挟んだ向かい側に、土場と呼ばれる敷地がありまして、ここには以前は、たくさんさんの石材在庫や砂利などが乱雑に置かれていたのですが、いったん不要なものを整理して、よい状態になりました。



社員駐車場に生まれ変わった土場

乱れていたところをキレイに整えただけで終わりにせず、さらに有効活用するためにどんなことができるのか、知恵を出し合っています。

同社の「そうじの力」から学べるのは、整理・整頓・清掃とは、決してキレイにすることが目的の活動ではない、ということです。

活動を通じて、健全な規律を養い、コミュニケーションを取りながら創意工夫改善していく体質を、作っていくことが目的なのです。

(小早)

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



コラム

神は細部に宿る

～なぜ細かいことにこだわるのか～

私は仕事柄、支援先の現場で、構造物の裏側に回り込んだり、什器の下側を覗き込んだりします。

そうした所に、不要物が放置されていたり、ホコリが溜まっていたりしないかを、確認するためです。

「重箱の隅をつつく」と言いますが、まさにそうです。「小姑のよう」だと表現する人もいますが、まさに小姑のような行動が、私のトレードマークです笑。

そうしたことがクセになっているので、自分が客としてお店に入ったときも、そういったことが意識せずとも気になります。

先日、某コーヒーチェーン店で、その日の仕事の準備をしていたのですが、ふと見ると、隣の長テーパーの脚の下に、ホコリがいっぱい溜まっているのが目に入っていました。



別にその店に、特段に清潔にすることを求めているわけではありませんが、いつべんに嫌な気分になってしまいました。

ところで、なぜこのように細かいことにこだわるのでしょうか？ 少し、考え方をまとめてみたいと思います。

①見えないところに本性が現れる

人は誰しも、程度の差こそあれ、裏と表があります。その差が小さい人ほど、人格者と言われるでしょう。

裏と表があつたときに、どちらがその人の本性でしょうか。どちらが本音に近いでしょうか。やはり、裏でしょう。

だから、見えないところに本性が現れます。見えるところをキレイにしても、見えないところが汚ければ、規律、安全、自主性、創意工夫といった風土が定着していないと判断できます。

②最後の詰めが物事の成否を決する
仕事でもスポーツでも、そこそこの線をいついていても、最後の詰めが甘ければ、成後はしません。

たとえばサッカーにおいて、ゴールポスト付近にボールを寄せることはできて、ゴールに入らない限りは、得点にはなりません。何十本ゴール近くに寄せても、入らなければゼロなのです。

コーヒーチェーン店の話に戻せば、いくらコーヒーが美味しくしても、いくらインテリアがお洒落でも、脚下にホコリが溜まっていたら、評価はガタ落ちです。

③小さなことをおろそかにして、大きなことはできない

人はよく、「小さなことにこだわらず、大きな仕事をしよう」などと言ったりします。しかし、そのようなことは、絶対にできません。

サッカーならば、基本的なパスやトラップが正確にできることなしに、スーパーストライカーが生まれることはありません。

だから、細かいことにこだわるのです。「細かい人」「うるさい人」は、貶し言葉ではなく、誉め言葉なのです。(小早)

編集後記

尻痛解消

今年のゴールデンウィークは、珍しく、どこにも行かず、自宅オフィスでずっと仕事をしていました。

長時間イスに座っていると、お尻が痛くなり、仕事が続けられなくなります。

そこで、昇降式デスクを購入し、スタンディング(立ち姿勢)で仕事ができる環境を整えました。

やってみると、これが素晴らしいのです！なんとなく、立っていた方が脳が活性化する感じもします。腰痛持ちの人にもお勧めですよ！(小早)



飛鳥のつぶやき

料理は大変

縁あって、子ども食堂のお手伝いをしてきました。

今回のメニューは唐揚げ。業務用の鶏肉を何袋も開け、でかいボウルで調味液に漬け、中華鍋でひたすら揚げ…。我が子は小食で全然食べないので、初めてこんなに大量の唐揚げを揚げました。

1時間半近く揚げ続け、何食分になったのかといえば、たった40食！(；▽；)ひとクラス分程度…だと…？！

調理師さんの大量調理のすごさを思い知ったのでした。ありがとう、食事を作ってくださいの方々…(；▽；) (大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨くコンサルティング

弊社は“そうじ＝整理・整頓・清掃”を通じた企業風土改革を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を

原則としますが、企業規模や現場の状況、ご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。

また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)